

＜株式会社エフエム東京 第 493 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 4 年 11 月 1 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室／リモート併用開催
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル 委員長	秋 元 康 委員
川上未映子 委員	佐々木俊尚 委員
松田紀子 委員	山口真由 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（7 名）

唐 島 代表取締役会長
小 川 取締役
内 藤 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局次長 兼 編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
砂 井 制作部プロデューサー

◇社側欠席者（1 名）

黒 坂 代表取締役社長

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 38 分）
『THE TRAD』
2022 年 10 月 11 日（火）15：00～16：50 放送のダイジェスト

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■「エフエム東京 放送番組基準」の一部変更について

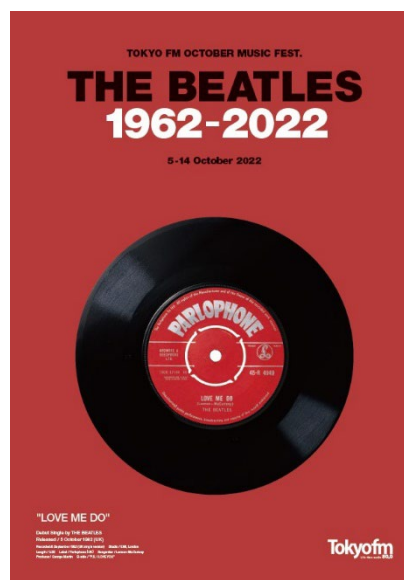
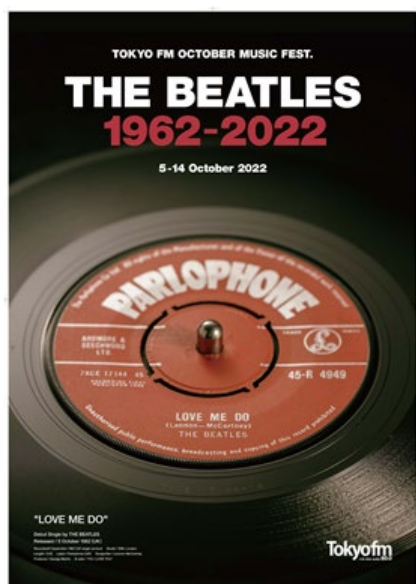
「民放連 放送基準」の改正に伴い、2023 年 4 月から、当社の放送番組基準を一部変更したいと存じますので、今回 11 月度の番組審議会でご説明します。来月 12 月度の審議会で諮問を行います。

■TOKYO FM10 月度ステーションキャンペーン

TOKYO FM OCTOBER MUSIC FEST. 「2022 年のザ・ビートルズ」～THE BEATLES, 1962-2022～

TOKYO FM では、10 月 5 日（水）～14 日（金）、<TOKYO FM OCTOBER MUSIC FEST.>『2022 年のザ・ビートルズ』～THE BEATLES, 1962-2022～を展開しました。ビートルズが「ラヴ・ミー・ドゥ」でデビューしたのが 1962 年 10 月 5 日、今年でちょうど 60 周年。TOKYO FM では各ワイド番組でビートルズの楽曲にフォーカスした特別企画をお届けしました。

『THE TRAD』（月～木 15:00～16:50）では、「あの人が語る“My First Beatles”」と題して、村上春樹氏、松任谷由実氏、福山雅治氏、リリー・フランキー氏、秋元康氏、…TFM レギュラー出演者たちの「最初に衝撃を受けたこの 1 曲」を本人のコメントとともに紹介。『SCHOOL OF LOCK!』（月～木 22:00～22:55）では、「10 代にビートルズはどう聴こえているのか？」探るべくビートルズ好きの 10 代と電話を繋いだり、ゲストの音楽評論家、萩原健太氏には 10 代に向けてビートルズの魅力をじっくりとお話いただきました。



議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『THE TRAD』

2022 年 10 月 11 日 (火) 15 : 00~16 : 50 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、10月11日(火)に放送した『THE TRAD』のダイジェストです。

前述した「2022年のザ・ビートルズ」では、『THE TRAD』はキャンペーンの軸となるような企画を10月5日(水)～14日(金)に毎日展開。

10月11日(火)の放送回では、「声に出して読みたいビートルズ」と題し、ビートルズの歌詞に注目してお届けしました。詩人マーサ・ナカムラ氏による2022年版訳詞を稲垣吾郎氏、鈴木杏氏、ビッケブランカ氏、そしてマーサ・ナカムラ氏本人が朗読、マーサ・ナカムラ訳の新たな歌詞によってビートルズの詩の世界を改めて味わいました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○普段 TOKYO FM を聴いているので、キャンペーン中にいろいろな角度からビートルズが紹介されているのを聴き、音楽に心癒されました。今回の試聴番組「THE TRAD」は、ビートルズの深みを味わえるすごくよい企画だったと感じる。同時に、最近は歌詞を噛み締めながら歌を聴くことから離れてしまっていると改めて感じた。CD が手元にあったときは曲を聴きながら歌詞カードを見て覚えようとする行動があったが、今はサブスクなどで何でも聴けるようになり、いちいち歌詞を噛み締めるようなこと自体が、ビートルズに限らず、減ってしまったと思う。昔は歌詞を噛み締めて一生懸命聴いていたなというところまで持って行ってくれる、そういう体験をさせてくれる番組だと思った。

○マーサ・ナカムラ氏の解説も人柄が伝わってきて良かった。詩人ならではの感性というか、言葉の選び方ひとつひとつがみずみずしいものを持っていると思った。父親がビートルズが好きだというレッテルを 1 回はずして見て、改めてビートルズと向き合ってみた、というお話も印象的だった。

○ビートルズの再定義というか、少し上の世代が懐メロとして聴くビートルズではなく、全く新しい視点からビートルズを聴くという番組の構成が大変面白いと感じた。マーサ・ナカムラ氏は 1990 年生まれの詩人なので Z 世代にあたるが、Z 世代がビートルズを聴くと、違う風に聴こえてくると。例えば、最後に出てくる「アクロス・ザ・ユニバース」、60 年代 70 年代の受け取り方と、マーサ氏の受け取り方が全然違って面白いと感じた。60 年代 70 年代はもっとファンタスティックでラブリーな印象を持っている人が多かったと思うが、マーサ氏の歌詞で聴くと、力強い応援歌のように感じる。60 年代 70 年代に洋楽を聴いていた人たちの心象と今を生きる若い人たちとの心象が違うということが浮き彫りになっている気がして面白かった。

○これまでは音楽を体系的に聴く、ということがあった。しかし今、そういう音楽の聴き方をしている人はほとんどいなくなった。サブスクが普及して、音楽の時代性が急速に消滅してきて、あらゆる時代の音楽を一緒くたに、自分の好きなジャンルに沿ったレコメンドや、友人からの SNS シェアで聴くようになった。そういう背景もあって、若者にビートルズを聴かせても懐かしいですね、とはならず、同時代的に「この曲かっこいいじゃん」となるのだと思う。先日もテレビで「年齢別懐メロ泣ける音楽ベスト 10」のような企画をやっていた。確かにそれは定番で盛り上がる企画かもしれないけれど、チューリップの曲を聴くのは、60 年代だけでなくもいいし、昔の曲だからといって懐かしがらなくてもいいなと思った。きっと時を超えて 10 代にも刺さる部分があるのだと思う。そういう意味

でこの番組は、新しいラジオにおける音楽の在り方や、音楽番組をどう作るかは今後さらに大きく変化していくのではないかという予兆を感じるような番組だった。

○構成がシンプルだが、非常に秀逸な番組だと感じた。特に複雑な構成ではないが、英詩の邦訳をして、その朗読をした後に原曲を聴かせる、ありそうだけどあまりなかった。また、パーソナリティ 2 人の相性の良さも感じた。

○稲垣吾郎氏、鈴木杏氏、マーサ・ナカムラ氏と複数の朗読者を立てたことが良かった。

○翻訳というのは非常に創造的なプロセスだと改めて感じさせられた。明治期の法律家が、西洋の法律を訳す際に、デモクラシーという概念はそれまでなかったのに、民主主義と訳した。パブリックとプライベートを公と私と訳し、国と国、人と人の関係を整理した。それは単なる置き換えの作業ではなく、概念を理解して日本の文脈の中で再構築するという創造的なプロセス。この翻訳という作業が日本は抜群にうまい。マーサ・ナカムラ氏にもそれに通ずるものを感じたというか、ビートルズを 2022 年の文脈で再構築している。新しい解釈をして、言葉を補い、ある種の想像をして世界観を良く表現している。現代的な形で世界観と本質を維持したまま伝えるのが非常に面白いと感じた。

■出演者自身も今回の企画は新たな発見があったり、楽しかったと感想を述べていた。マーサ・ナカムラ氏の翻訳が本当に素晴らしかったので、それを軸に BGM など構成していった。

頂いたご意見をもとに、また企画にチャレンジしていきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

11月26日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>